

エドワード・ゴリーの優雅な秘密

練馬区立美術館（中村橋） 2019.09.28～11.24

「エドワード・ゴリー」(1925～2000)はアメリカの絵本作家で、アイロニカル(風刺)で少し不気味な独特の雰囲気と繊細なモノクロームの線描で、世界中の人たちを魅了し、近年、本邦でも『うろんな客』『不幸な子供』(柴田元幸訳)など翻訳書が次々と発行されたことから、日本でも人気が高まっている。

「ゴリー」の絵本世界は、古語や造語、押韻などが散りばめられたテキストによって、組み立てられた幻感的な物語と、細いペンで描かれた繊細で優雅なイラストで構成されているのが大きな特徴である。また、「ゴリー」が生み出したのは、絵本の世界だけでなくバレエや演劇など舞台芸術もあり、それらの衣装や舞台意匠、ポスター、脚本までも手掛けて、様々な創作の源泉となっている。

画伯の作品は、“トレードマークの微細な線画で圧倒的な背景を描き込み 一人の少女の不幸を悪趣味すれすれまでに描いた傑作”である。

本展は、画伯「ゴリー」の没後に、準備された「世界巡回の原画展」を日本で初めて公開する企画で、原画・資料・書籍など「約350点」が展示されている。



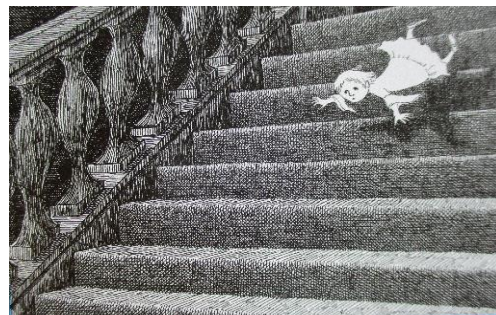
展覧会ポスター



書籍 「不幸な子供」



荒れ狂う潮 原画 1887年



ギャングリークラムの子たち 原画 1963年